

第15回葛飾図書館友の会

久しぶいに会員が集まり、今年度の活動計画などを決定 「友の会ウィーク」や「新春かるた会」も開催へ

2022年4月30日(土)午後2時から、第15回葛飾図書館友の会総会が葛飾区立中央図書館会議室で開催されました。新型コロナの流行により一昨年、昨年と2回にわたり総会に代わり活動報告や決算・予算、活動計画などを書面議決で決定してきましたが、やっと会員の参加による対面方式で開催されました。

総会の成立を確認した後、朝野友の会会長の開会の挨拶があり、本年4月から就任された新井中央図書館新館長の祝辞をいただきました。

まず2021年度活動について総務、広報、ナイトシアタークラブ、おはなしくらぶ、CD・DVDコンサートクラブ、多読クラブ、イベントクラブ、昔語りの会(2021年度をもって友の会での活動は終了)、読書クラブの代表者から報告がありました。

加えて「2021年度収支報告」及び「同監査報告」の3議題ともそれぞれ拍手多数で承認されました。続いて「役員改選(案)」の審議に移り、今後2年間の役員体制が可決・決定されました。

新たな取り組みとして川柳の募集を

そして第12回目になる「友の会ウィーク」や新たな試みとして「葛飾図書館友の会川柳」募集を含めた「2022年度活動計画(案)」



鶴岡新会長

朝野前会長

と「2022年度予算(案)」も併せて拍手で可決されました。

総会はすべての議事を終了し、鶴岡新会長の挨拶に続いて、13年にわたり会長職を続けてこられた朝野前会長への花束贈呈をもって、約1時間で終了しました。

なお、これまで総会後に開催されていたライブラリーカフェは今回は中止しました。

2022年度～2023年度役員

役職(リーダー)	役員
会長	鶴岡 幸子
副会長	山浦 敬子
副会長	力石 歩
会計	中里 隆二
会計監査	岩元 修二
会計監査	西村 喜久子
総務委員長	中里 隆二
広報委員長	阿部 京子
ナイトシアタークラブ	中里 隆二
おはなしくらぶ	沢辺 悦子
CD・DVDコンサートクラブ	高橋 久郎
多読クラブ	力石 歩
イベントクラブ	北野 達也
読書クラブ	島崎 陽子



6月29日、本年4月から中央図書館に着任された新井秀成新館長に広報委員会スタッフが話を伺いました。

新井館長の前の職場は障がい者施設課の課長で、7月19日にオープンした子供発達センターなどが入った複合施設である「にこわ新小岩」の開設にも尽力されてきたとの事。オープン前に異動になってしまっただけ残念でしたねと言うと、実は大学誘致担当係長として東京理科大の誘致にも関わっておられ、その時も開校前にやはり異動だったそうです。

「にこわ新小岩」の療育施設への取り組み、大学誘致のための全国行脚、理科大の図書館の区民利用や産学連

携の交渉のお話などは大変興味深い内容で、スタッフ一同聞き入っていました。

図書館との関わりについてお聞きすると、入区して最初の職場が上小松図書館で3年間の図書館での勤務経験があるとの事。本年着任し図書館施設の立派さや高度なシステム、職員の専門性の高さに驚いたそうです。昔はハンコによる貸出処理で、図書館は本を貸出す場所というイメージだったのが、今は児童への読み聞かせの技術や利用者へのサービスが格段に進歩していると感じたと話されました。

現在は図書館の運営に関して施設の整備や管理運営のやり方について職員の意見を聞き、話し合いを進めており、職員みんなで中央、地域、地区図書館のあるべき姿を勉強し考え、より快適に利用できる図書館を目指していきたいとのことでした。

お住まいは江戸川区で、中央図書館まで40分かけて自転車通勤なさっているそうです。このコロナ禍で最近控えているが趣味は旅行で、お寺巡りが好きとの事。

図書館友の会の活動についてどう思いますかという問いには、友の会の活動は独自の判断でイベントや企画を進めていて、図書館と共存している団体であることに大きな意義を感じている。図書館を実際に使っている人の立場からの率直な意見が聞けることが素晴らしいと思うし、これからも刺激し合う関係でありたいというコメントをいただきました。

印象的だったのは「区の職員は問題意識を持ち知恵を絞って計画を立て、後輩たちに事業を進めてもらう土台を作ることが仕事だ」という言葉でした。スタッフから新井館長は、どの職場でも「土台を築く人」なのですねという言葉で1時間にわたるインタビューを終了しました。

2022年8月以降のナイトシアター上映予定作品

回	開催予定日	上映映画
139	8月13日(土)	ノー・マンズ・ランド(区内図書館初上映)
140	9月10日(土)	モンパルナスの灯
141	10月8日(土)	くるみ割り人形(区内図書館初上映)
142	11月12日(土)	海よりもまだ深く
143	12月10日(土)	紳士は金髪がお好き
144	2023年1月14日(土)	天使のいる図書館
145	2月11日(土)	スリ

来館者にやさしい図書館

独自のさまざまなイベントを計画中

今年45周年を迎え、「お花ちゃん」という可愛らしいキャラクターを作った。地域の方々に図書館により親しんでもらおうと、この他にも様々な工夫やイベントが計画実施されているという。

まず、入口を入るとすぐ特集コーナーが目に入る。中でも赤ちゃん絵本が並ぶ児童コーナーがあって、ここは一般室の入口なのに何故かと思っていると、打越館長がおっしゃることに、「ここは2階が児童室で、午後5時に閉まるので、そのあとに来た保育園帰りの親子さんが借りられるようにと置いてある」のだそうだ。

この館の特色は、2階に地域資料室があり、中でも「平櫛田中常時展示コーナー」は当時田中が住んでいたアトリエ兼家がジオラマでみられることだ。3階は閲覧室、会議室、持ち込みパソコン席(6席)がある。いつも静かでトラブルもないとのこと。3階まではエレベーターも設置されているから、階段が苦手な人も安心だ。

コロナ感染のために来館者数が減少傾向にあり懸念されていたが、少しずつ元に戻りつつある。とは言え、まだまだ元のような勢いは見られない。そこで、館職員が一丸となって地域の方々に図書館に足を運んでもらおうと、館独自の様々なイベントを計画している。8月にはこの館としては2年ぶりの「映画会」が実施される。また、秋には南葛SCとのコラボで、選手たちによる読み聞かせ、さらに近所の方々を対象にしたお楽しみも計画中とのことである。

残念なことに、改修計画は延期され、トイレが使いにくい、床のタイルが割れている、椅子に座ったらストッキングが破れた等の苦情は解消されないが、それ以上にどうしたら来館者が本に親しみ、また来たいという気持ちにさせるかの工夫は素晴らしい。



蔵書数は11万冊と多数あるが、その中でも、この館で力を入れているのは、来館者が本をずっと手に取り易くするための工夫である。「いきいきシニア」のための本には赤い小さなテープを、ペットの本には犬猫の顔のついたシールを張るなど、細かい配慮がなされている。エレベーターを待っている間にも本が手に取れるようにと、特集の棚が設けられている。

この細かい心配りはちゃんと来館者には届いていて、SNS口コミサイトでは評価が高いという。地域の図書館としての機能が半世紀近くたって、やっと根付いてきたという想いと図書館員の方々の行き届いた暖かい気配りに感謝しながら、満ち足りた気持ちで帰途に就いた。

(広報委員 山浦敬子)

毎年、友の会へご寄付ありがとうございます 今後ともご支援をお願いします

「葛飾図書館友の会」は会員制度をとるボランティア団体です。図書館を守り育てる活動、生涯学習の場としてともに学ぶことを目的として毎年、年会費を払うことで活動をしています。会員には会の趣旨に賛同していただいている賛助会員(企業・団体を含む)と実際に活動を担う一般会員がいます。また1口500円のご寄付もお願いしています。チラシやポスターの作成、文具・用紙の購入や発行物の郵送費、さらにはイベント開催に係る費用などをすべてこの会費と寄付金でまかっています。

図書館からの活動への協力もあり、今まではなんとか赤字も出さずに来ました。その意味でも寄付金は財政的に大きな意味を持っています。これまで毎年ご寄付をいただいている方々へあらためてお礼申し上げます。

ご寄付をいただいた方々を含め、友の会の会員には毎月活動予定をお知らせする「たんしん」や季刊紙「友の会通信」などを郵送・送信しています。また書き損じのハガキや使用しない切手などの提供もお受けしています。今後とも「葛飾図書館友の会」へのご支援をお願いします。(加入などについては4面を参照してください)

友の会と参加団体の活動を披露するチャンス到来！

8月20日（土）午後に参加予定団体への説明会を中央図書館で開催して、スタートします。なお、10月末までに区内図書館や友の会ホームページなどでイベントプログラムを発表しますのでご期待下さい。

なお、詳細は9月中旬にポスターやチラシ、「友の会」のホームページなどで発表します。

色えんぴつ